

2 悪気のない言葉で、相手を傷付けてしまった事例

児童A（女子）、B（男子）、C（男子）らは、学級でみんなで遊ぶ内容を話し合っていた。児童Bは意見を言わない児童Aに、「意見を言いなよ」と促したが、児童Aは泣き出してしまった。

【被害の子供：小学校2年 女子】

学級のグループごとに、みんなで遊ぶ内容について話し合い

児童C 「何で遊ぶか決めよう。ドッジボールがいいな。」
児童B 「Aさんも黙っていないで何か意見を言いなよ。」
児童A 「……………」（うつむいて涙ぐむ）

児童Aの母親は、担任に子供が泣いて帰ってきたと訴え

母親 「B君に言われたことで、学校に行きたくないとっています。いじめではないでしょうか。」
担任 「傷付いて帰ったことに気が付かず、申し訳ありません。すぐに学校いじめ対策委員会に伝え、対応を検討します。その結果を改めて本日中に連絡します。」

学校いじめ対策委員会で、いじめの認知、対応について検討

学年主任 「B君は好意で言ったのだと思いますが、Aさんがつらいと感じているのだからいじめということですよ。」
担任 「しかし、B君の言動をいじめという、トラブルになってしまう可能性もあります。」
生活指導主任 「Aさんが傷付いていることは確かなので、いじめと認知して解決しなければなりません。しかし、B君にはいじめという言葉を使わないで話をしましょう。」

担任から児童Aの母親へ電話で連絡

担任 「学校は、いじめとしてしっかりと対応します。B君にAさんが傷付いてしまったことを気付かせ、今後の言動について気を付けるよう話をします。Aさんが安心して学校に通えるようにしたいと思います。」

担任・学年主任が児童Bの母親と面談

保護者 「うちの子が、いじめの加害者ということですか。」
担任 「そうではありません。B君は優しいのでAさんにも意見を言ってほしいと思い、声を掛けたのだと思います。ただ、AさんはB君の言葉に傷付いてしまったようです。私から、AさんにB君の優しさを伝えます。」

担任から児童Aへの声掛け

担任 「つらい思いをしていたのに気付いてあげられなくてごめんね。B君には、Aさんの気持ちを分かってもらえるように先生から話をするから心配しないでね。」

担任から児童Bへの声掛け

担任 「B君はみんなに優しく声を掛けていますね。先生はそんなB君が大好きです。実は、Aさんのことで一緒に考えてほしいことがあるのだけれど……………」

3 両者がいじめの被害者でも加害者でもある事例

生徒A（女子）は、バレーボール部に所属し、積極的に活動していたが、同じチームの生徒B（女子）たちのミスを厳しく指摘することが多く、次第に仲間から疎まれ無視されるようになった。

【被害の子供：高等学校2年 女子】

生徒Aの欠席について
母親が担任に電話で連絡



担任がバレーボール部顧問に
部活動内のいじめについて
確認



学校いじめ対策委員会での
協議



担任とバレーボール部顧問が
バレーボール部員一人一人に
聞き取り



学校いじめ対策委員会
今後の対応について協議

母親 「娘がバレーボール部のBさんたちからいじめられているようです。『もう学校に行きたくない。』とっています。何があったのでしょうか。」
担任 「Aさんが、つらい思いをしていたことに気が付けず申し訳ありません。すぐにバレーボール部の顧問に確認して、本日中に御連絡します。」

顧問 「Aさんがいじめを理由に休んでいるんですか。私が見ている限りでは、Aさんの方がBさんやほかの部員にきつい言葉を掛けているように思いますが……」
担任 「本当ですか。状況は複雑かもしれませんね。すぐに学校いじめ対策委員会に報告して、対応を検討してもらいましょう。」

生徒B 「いじめられているのは、むしろ私たちの方です。Aさんはよく『やる気がないなら、やめちゃえば。』と言ってきます。特に私はミスが多いので『何度同じこと言わせるの。もういい加減にして（強い口調で）。』と言われて、トイレで泣いたこともありました。」
顧問 「Aさんはバレーボールの経験が長いから、ついきつく言うってしまうのかもしれないね。」
担任 「それで、みんなで無視して仕返ししようとしたのかな。」
生徒B 「……………」（涙ぐむ。）」

顧問 「Bさんの気持ちはよく分かります。これはいじめには当たらないのではないのでしょうか。」
生活指導班 「いや、Aさんが傷付いていれば、いじめに該当します。これは、AさんBさんがそれぞれいじめの被害者でもあり加害者でもある事例です。」
担任 「分かりました。少しでも早くAさんと話をした方が良くと思うので、これから家庭訪問をします。その上で、Bさんたちと話し合うことを勧めてみます。」
顧問 「それでは、私は、Bさんの保護者に電話してこのことを伝えます。」

4 LINE への書き込みを友達が教員に伝えた事例

生徒A（女子）はLINEによる「ムカツク」「うざい」等の同学年の複数の生徒からの誹謗中傷に悩み、親友の生徒B（女子）に相談した。生徒Bは、「絶対に誰にも言わないでほしい。」と言いながら、担任に相談した。

【被害の子供：中学校1年 女子】

SNSによる生徒Aへのいじめについて、生徒Bが担任に相談

生徒B 「先生、絶対にみんなに言わないでください。AさんがLINEでいじめられているんです。」（画面を見せる。）

担任 「全く気が付かなかったな。Bさんから伝えられたことは内緒にするから、これプリントアウトしていいかな。」

学校いじめ対策委員会での協議

生活指導班 「LINEによるいじめは、ハンドルネームから必ず個人が特定できます。学校として必ず解決させなければなりません。」

養護教諭 「Aさんが、誰かに相談できればいいのですが……」

学年主任 「Bさんから、Aさんに都の『いじめ相談ホットライン』に電話するよう勧めてもらいましょう。」

校長 「私から教育相談センターに電話し、Aさんから電話があったら、『先生でも両親でもいいので相談するよう助言してほしい。』と依頼しておきます。」

担任が生徒Aの父親に電話で連絡

父親 「娘を心配してくれる友達がいることが分かり安心しました。娘が『いじめ相談ホットライン』に電話相談してくれることを待ちたいと思います。」

生徒Bが「いじめ相談ホットライン」に電話するよう生徒Aに紹介

生徒B 「前に学校で教わった『いじめ相談ホットライン』を思い出したの。24時間受け付けてくれるみたいだし、電話してみようよ。」

生徒A 「うん。でも……」

生徒Aが「いじめ相談ホットライン」に電話で相談

相談員 「それは本当につらかったですね。よく電話してくれました。不安だと思うけれど、この問題は、大人に伝えないと解決しないと思います。きっと守ってくれると思うので、勇気を出して学校の先生でも御両親でも誰でもいいので、相談してみませんか。」

生徒Aの母親が担任に連絡

母親 「娘がSNSのいじめについて、私に相談してきました。Bさんが自分のことを心配してくれているから、先生にも伝えていいと言っています。」

<教員の指導により一定の解消後>

学校いじめ対策委員会によるその後の状況の確認

校長 「安易にいじめが解消されたと考えずに、本当に再発がないか、授業や部活動の様子をしばらく観察してください。養護教諭からも声掛けをお願いします。」

5 スクールカウンセラーの全員面接からいじめを発見した事例

生徒A（男子）は、スクールカウンセラー（SC）による全員面接の事前アンケートで「少し悩みがある」にチェックしていたが、全員面接の時は、「今は、もう大丈夫」と言って、この件について話そうとしなかった。

【被害の子供：高等学校1年 男子】

ホームルームで全員面接の
事前説明とアンケートの実施

担任「このアンケートは、全員面接を控え、皆さんの悩みや不安について、学校として真剣に受け止め解決するために行うものです。ほかの生徒と見せ合うことなく、一人一人が真剣に記載し、チェックが終わったら、半分に折って直接提出してください。」

SCによる全員面接の場で
生徒Aとの面接

SC「『少し悩んでいる』というところにチェックしていますね。何に関する悩みですか。」

生徒A「でも、今はもう大丈夫です。」

SC「急には話しづらいかもしれませんがね。今度時間を取るのじっくり聞きますよ。悩みごとはどんな小さなことでも早いうちに、誰か大人の人に相談した方がいいですよ。『少し悩みがある』にチェックしていることは私から担任の先生に伝えてもいいですか。」

学校いじめ対策委員会で
全員面接の結果について協議

SC「A君は『今は、もう大丈夫』と言っているのですが…」

学年主任「A君から話を聞いた方がいいですね。次にSCが来るのは1週間後ですね。」

SC「『少し悩みがある』にチェックしていることは伝えていいと言っています。」

担任「まず私から声掛けしてみましようか。」

学年主任「A君は確か野球部でしたね。顧問の〇〇先生をお願いしてみましよう。」

野球部顧問による生徒Aへの
声掛け

顧問「何か気になっていることがあるの？」

生徒A「部活ではないけれど、同じクラスの生徒からよく『お前、空気読めないな。』って……」

担任から生徒Aの母親に
電話で連絡

担任「A君はこのことをあまり話したくないようにしていたので、お母さんにお伝えすべきか迷ったのですが…」

母親「お伝えいただきありがとうございます。息子にとって、先生方が気付いてくれていることが安心につながると思っています。しばらく様子を見ていただけますでしょうか。」

担任「分かりました。それでは週末にその後の様子を連絡いたします。」

6 学校サポートチームを活用して対応した事例

不登校傾向がある生徒A（男子）たちは、登校すると他の生徒を冷やかしたりからかっていたりしていた。家庭の協力もあまり得られず、改善が見られない状況が続いていた。

【被害の子供：中学校2年 男子】

学校いじめ対策委員会での協議

学年主任 「A君たちは、ほかの生徒たちが真面目に行動すると、冷やかしたりからかったりします。指導はしていますが、家庭の協力も得られず、改善が見られません。」

副校長 「学校サポートチームの定例会が近日中にあるので、支援策を検討してもらいましょう。」

学校サポートチーム定例会での協議

S S W 「該当生徒の家庭訪問をして、状況を確認してみます。」

主任児童委員 「A君の母親は、私のかつての同級生だから、相談に乗ってみますよ。」

※ S S W（スクールソーシャルワーカー）

担任は、生徒Aらが生徒B（男子）のかばんを蹴飛ばす状況を発見し、校長に報告

担任 「校長先生、A君たちがB君のかばんを蹴飛ばしてからかっています。彼らの行動はエスカレートしてきています。早急に対応する必要があります。」

校長 「臨時の学校サポートチーム会議を招集しましょう。」

学校サポートチーム臨時会議にて対応の検討

主任児童委員 「A君の母親も、養育に悩んでいました。」

スクールサポーター 「このまま放っておくと、犯罪につながってしまう可能性があります。A君らは万引きで指導したことがあるので、私から声を掛け注意してみましよう。」

PTA会長 「でも、B君が仕返しされないか心配です。」

生活指導主任 「学校としてB君を絶対に守ることを保護者に伝え、理解を得ておきます。」

担任は家庭訪問をし、生徒Aの母親と面談

担任 「私は1年生の時からA君を見ていますが、本当はとても優しい子なのに、最近、何かに悩んでいるのか行為がエスカレートしてしまっているように思っています。学校としては、今のうちにA君のためにも、厳しく指導をすることも必要と考え、元警察官の方に話をしてもらおうと思っています。もちろんその後のフォローは私たちがいたします。」

母親 「そうですね……。私も最近手に負えなくなっているの、そういうことも必要なのかもしれないね。」

第 5 部

教材・資料 等

